

第 34 回茅野市新地域公共交通検討会議

開催日時	令和 8 年 2 月 12 日 (木) 午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分まで		
開催場所	茅野市役所 8 階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	4 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容 (概要)		
事務局	<p>第34回茅野市新地域公共交通検討会議を開催。詳細は下記のとおりです。</p> <p>1 開会 第34回茅野市新地域公共交通検討会議を開催いたします。</p>		
会長	<p>2 会長あいさつ 皆さんこんばんは。 大勢の皆さんに、お仕事の後の大変お忙しい中、この会議にご出席をいただきまして本当にありがとうございます。 この新地域公共交通検討会議も1つの曲がり角に来ました。 この曲がり角は、やはり料金でどこまで自立するかということで、元々福祉バスでありますから、全く普通に運営はされない訳であります。そのようなことを置いても、どこかでは値上げをして、長く持続力あるようにしていくということも大切であると思います。 そのようなことで今日、お集まりをいただきました。 ここで、1つだけお願いをしたいのは、今日から新しく地域のいろんな役職で交代される方もおいでになります。子供たちの将来、お年寄りまで続くような、いいものにしていきたいという風に思っておりますので、初めて来たからというようなことをお考えにならずに、どうぞ忌憚のないご意見をどうぞお聞かせいただきたいと思ひます。それではどうぞよろしくお願ひいたします。</p>		
	<p>3 委員の交代について</p> <p>——委員の変更について事務局より説明——</p>		
会長	<p>4 報告事項 (1) 原村「のらざあ」令和 8 年度実証運行について ——資料 1 をもとに原村より説明——</p> <p>ご意見、ご質問を受けたいと思ひます。 ご意見、ご質問無いようですので先に進めさせていただきます。</p>		
会長	<p>(2) 蓼科湖方面バス アンケート調査報告について ——資料 2-1、2-2 をもとに事務局より説明——</p> <p>ご意見、ご質問を受けたいと思ひます。</p>		
委員	<p>途中での参加ということもあり、若干、失礼な質問かもしれませんが、この調査をすることは目的、またこの活用について教えてもらえればありがたいです。</p>		
事務局	<p>令和 6 年度に公共交通検討会議の中で作成しました公共交通のロー</p>		

	<p>リングプランで、令和8年度の4月以降に蓼科方面のバスの実証運行をしていきたいという考えを示しています。</p> <p>そこで、実際走らせるにあたり、どういった頻度、それからどういったところにニーズがあるのかということアンケート調査させていただきました。</p> <p>今回の公共交通会議の中で、このアンケートを基に、実証運行の方向性を示したいところではありますが、現状では、新年度に向けて予算化を進めている段階であるとともに、運行事業者様の方に、この案をベースにした運行路線の方を、検討していただいているという状況です。</p>
委員	<p>公共交通ということならば、その方面に走らせるということは1つの実証実験ですけども、その先には白樺湖もあり、広いエリアになりますので、どこを見据えながら実証実験するというようなイメージを持たれているのであれば、その辺の確認だけちょっとさせてもらいたと思います。</p>
事務局	<p>こちらローリングプランの方に記載させていただいた内容になりますが、まずは3か年ということで、7年度から9年度まで、蓼科方面は実証バスにより状況を把握していきます。白樺湖につきましては、現状の路線バスをまずは維持するという事で考えています。</p> <p>(3) 公共交通利用者満足度調査報告について ——資料3をもとに事務局より説明——</p>
会長	<p>ご意見、ご質問を受けたいと思います。</p>
委員	<p>今の説明の中で、自身の行動範囲の拡大がかなり広がったというご意見が多かったという風に伺いました。</p> <p>14ページに利用目的、目的地というものがありますが、行動範囲が広がったと記載が見当たりません。</p> <p>日常生活にあまり関係のない温泉や観光地が多いのかなという風な気がしますが、実際のこの回答者数はどの程度でしょうか。</p>
事務局	<p>27ページをご覧いただければと思います。27ページ下に帯グラフを示していますが、合計では53名からいただいた意見です。</p> <p>先ほどの14ページは、路線バスを対象にした設問のため、「のらぎあ」の目的地を調査項目としておらず、拡大している目的地がどこなのかという分析には至っていません。</p>
会長	<p>他に質問等ないようですので、ここで、新年に入って初めての会議ということで、市長さんにも一言お願いしたいと思います。</p>
市長	<p>皆さんこんばんは。</p> <p>大変忙しい中、こうして皆様方にはお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今年最初の協議の検討会議という形で、お集まりをいただきましたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>庁内協議が延びてしまいまして、はじめから参加できなかったことを、まず、お詫びを申し上げたいと思います。</p> <p>さて、今、様々ご報告をいただいたと思いますけれども、地方の公共交通の状況というのは、ここ30年ぐらいでどんどん変わってきています。かつては、一家に1台車があるという時代でしたが、今や1人に1台というような時代になっていまして、いわゆるバスですとか、そうし</p>

たものを使うことが減ってまいりました。

かつては駅前がハブとなっていて、駅前が賑やかだったという状況がありましたが、駅前に人が集まる理由がなくなってきているのが現在の状況です。

ただ一方で、都会では駅に人が集中しており、都会と地方では全く状況が違うということを、まず我々は念頭に置かなければいけないと思っています。

東京と同じようなことをやっても、絶対うまくいかない訳で、やはり地方にあった新しい公共交通の形を模索しているのが今、我々の状況かなという風に思っています。

「挑戦なき者に未来は作れない」というような言葉が、つい最近の選挙でもよく聞かれた言葉ですけれども、まさに今我々は挑戦をしている最中でして、そんなこともあって、実は地方公共団体の皆さんが、茅野市の「のらざあ」と通勤・通学バスのセットで作った公共交通の仕組みを視察に来ています。

他の自治体もみんな同じようなことをやっていると案外思われていますが、我々はそれまでのビーナちゃんバスを全部やめて、この今の形に作り替えようとしているところが根本的に違います。

他の自治体では、従来のそうしたバスも動かしながら、「のらざあ」の様なものを導入していますが、私どもは従来の路線を廃止して導入しているという形で、いわゆる背水の陣で臨ませていただいております。

ですから、それだけ本気で取り組ませていただいておりますので、中途半端にやって、いいとか悪いとか結論を出すつもりはないということは、ご理解をいただければという風に思っています。

まだまだ、いろいろな課題があります。いろいろな要望もいただきます。

ただ、これは皆さんが、この今、茅野市が作り上げようとしている交通システムに期待してくれているからだと思います。期待がなければ、あまり要望も言われませんし、苦情も来ないと思っています。

ですから、多くの方々の期待を受けていることを実感しながら、より良い形をみんなで作っていくことができればと思っています。何卒、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

いずれにいたしましても、こうした今日の会議などを通じて、多くの皆さんが全国のモデルになるような、そんな交通システムを作っていければと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。私からのご挨拶に代えさせていただきますと思います。

5 協議事項

(4) 「のらざあ」利用料金の値上げについて

——資料4をもとに事務局より説明——

会長

ご意見、ご質問を受けたいと思います。

委員

3ページの令和8年度の利用者数見込みによる試算についてお尋ねします。これは令和6年度の実績をベースにしているということですが、「のらざあ」の利用者は年々増えているという状況です。利用者の増加率みたいなものは加味していない、純粋な令和6年度の実績で算出しているとの理解でよろしいですか。

事務局

令和6年度の実績を基にという「基に」の部分は、記載の表の「R6人数実績分布」の割合に対して、令和6年度の実績を使用しています。

「R8想定利用人数」については、直近の利用人数を用いています。

委員	今の説明を受けると、令和8年利用者見込みの合計76,860人というのは令和6年度の実績数とは異なり、ある程度伸び率をかけた数字ということによろしいですか。
事務局	現在の利用人数に基づく収入想定額では、平日、土曜、日祝と記載している部分において、直近の1日あたりの利用人数、平日250人、土曜150人、日祝130人となっています。
会長	その他ご意見、ご質問を受けたいと思います。 無いよう出すのでグループワークに入りたいと思います。 ——事務局よりグループワークについて説明—— グループワークを実施
会長	今日グループ協議された内容につきましては、記録いただいた資料を元に事務局で集約をして、次回の会議で共有いたします。
事務局	6 その他 ——特になし——
副会長	7 閉会 皆様大変お疲れ様でした。 先日、市民館で行われたイベントに、自宅から「のらぎあ」で行きました。途中で1人乗られて、途中で降りられてという感じでした。 もっとたくさんの方が、乗り合いで走ればもう少し収益につながるとを思うと、もっとたくさんの方に知ってもらって、もっとたくさんの方に使っていただければと思います。 2年前から住所変えずに、富士見町の事業所に務めるようになり、富士見町の公共交通の検討会議のメンバーにも呼んでいただいて一緒に検討しています。 そこでは、茅野市と原村で走っている「のらぎあ」を、富士見町でも走らせてほしいという町の方の意見をよく聞き、非常に期待されているということを感じます。 新しい町長さんは、コンパクトシティを目指しておられますので、当然のことながら、コンパクトになればそこへアクセスする足が必要になります。こうした公共交通機関の整備が必須になりますので、同時進行の検討をしていくことになるのだろうなと思っています。 もし、この諏訪6市町村のうち、茅野市、原村、富士見町で「のらぎあ」が走れば、この南側の広いエリアで、多くの方が行動範囲を広げる公共交通を手に入れることができるという点では、非常にチャレンジングで夢のある話だと思います。 現実的には色々お金の面での問題もありますが、なんとかうまく、どなたにとっても、うまくいくシステムにさらに育っていくように検討できればと思います。 全国的に見ても非常に先進的な取り組みだという風に思いますし、未来に向けての検討の場に皆さんとご一緒できることは大変光栄だなと思っています。本日はお疲れ様でした。